

2013

広報

おぼま 9

《表紙》

伝統的な町並みが残る三丁町で地域の活性化を目的に「町家 de フェスタ」が開催されました。書道家の俵越山なべこしやまさんも参加して、道路約150mに紙を敷き、筆で1本の線を書く書道パフォーマンスを展開。多くの観客が見守る中、市民ら55人が筆をつなぎました。
(7月28日・香取、飛鳥)

【特集】 生きのびるための防災へ

あの災害を忘れない…

生きのびるための防災へ



昭和28年9月に本市を襲った台風13号は、多くの死傷者を出すとともに、多数の家屋が倒壊、床上浸水の被害を受けるなど、未曾有の大災害となりました。あの災害から60年。教訓を生かしながら防災について考えてみましょう。

■問い合わせ 生活安全課 ☎内線473

昭和28年9月25日、本州に上陸した台風13号は、勢いを増しながら本県に接近。午前6時には県下全般に風雨注意報が出され、次いで11時に暴風雨警報が発令されました。
本市の雨量は特に多く、北川・南川は、暴風雨警報が出された11時には、洪水水位を突破。橋が流されたり堤防が破壊されるなど各所で被害が拡大していききました。17時には南川湯岡付近の堤防が決壊して、下流河口付近に濁流が押し寄せ、多くの死傷者、流出家屋を出す大惨事となりました。

この台風被害による死者・行方不明者は合わせて41人、全壊203戸、半壊1503戸、床上浸水2067戸、床下浸水1123戸。学校の被害も多く、ほぼすべての小学校が全壊、半壊、大破などの被害にあ



(小浜市史参照)

あの日の記憶 (インタビュー)

田中 敬さん (79歳・和久里)

昭和28年9月25日、台風13号が襲った日。わたしは当時19歳でした。

家に祖父といたのですが、夕方に堤防となっていた鉄道の線路が決壊し、水が一気に集落へと押し寄せてきました。2人で上の階へ逃げたのですが、下の部屋いっぱいまで水が上がってきたので、必死になってかやぶきの屋根を破って逃げようと思いました。ようやく穴が空き、祖父を先に上げて、自分も上がりました。翌朝になってまわりを見ると、想像もつかない量の流木が家の屋根に覆いかぶさっていて、ゾッとしたのを覚えています。

大きな災害を体験していない人は、まさか自分のところには来ないだろうと心のどこかで思ってしまう。でも、少しでも危ないと思ったら、「自分で安全なところへ逃げなければいけない」ということを知ってほしいです。

平成23年台風被害

5月29日から30日にかけて大雨に見舞われ、市内で土砂崩れや冠水が相次ぎ、若狭西街道ものり面崩壊などにより通行止めとなりました。



▲当時の若狭西街道の様子

平成16年台風被害

10月20日、台風23号の接近により、本市も、床上浸水、土砂崩れ、停電など大きな被害を受け、道路の大規模な崩落も発生しました。



▲当時の県道泊小浜停車場線の様子



④



③



台風13号を体験した国申さん

写真①台風13号時の市内の被災状況

②被害にあった雲浜小学校校舎 ③津島 ④城内
①③④の提供/小浜市の歴史と文化を守る市民の会

今富地区では台風13号被災時の経験者による記録を集めた冊子を9月1日に発行します。また、それに合わせて「28 災朗読の集い」を9月28日⑤19時30時から今富公民館で開催します。※入場無料・誰でも参加可

問い合わせ

今富公民館 ☎56・1211

支えるヒト

People



消防副士長 三嶋みきさん(26歳 若狭消防組合消防本部)
 県内の消防職員が職務を通じて感じた思いや提案を述べる「県下消防職員意見発表大会」。今年1月の大会で若狭消防組合の三嶋みきさんが最優秀賞を受賞。4月の「東近畿支部消防職員発表会」でも優秀賞を受賞しました。テーマは子どもたちに対する防災教育です。三嶋さんにお話を聞きました。

子どもたちに対する防災教育

発表の内容を教えてください
 「ちびっ子防災隊を組織し、子どもたちが自分たちの住む地域を巡りながら、危険箇所や避難場所を調査し、自ら防災マップを作るといふ提案です。子どもたちの災害時の行動力を養えればと思いました」
 —どんな職務経験からの思いからですか
 「以前、指導課で小学校などの避難訓練を担当していました。授業中に災害が起る想定で、避難先もみんな同じ場所というのが基本的な形です。でも、災害は必ずしも学校にいるときに起こるわけではありません。いざというときのために、自分の住む地域で、どこが危ないか、どこが安全かを知ってほしいと思いました」
 —防災力を高めていくためには
 「東日本大震災で助かった子どもたちが多くが、自分たちで判断して避難したと聞きます。災害の怖さを教えるだけでなく、正しい知識を身につけてもらい、自分の身は自分で守るという意識を高められるよう、学校はもちろん地域でも防災教育に取り組んでほしいです」

■広がる自主防災への取り組み

災害発生時には、自分の身は自分で守るという「自助」、地域や近隣の人が協力し助け合う「共助」、市等の行政、消防機関などが取り組む「公助」のうち、「自助」と「共助」が被害を軽減するうえで大切な力となります。
 地域住民が連携して自発的かつ主体的に防災活動を行う組織のことを「自主防災組織」といいます。市内でも、区を中心に現在77の組織が登録され、避難訓練など災害に備えた活動が行なわれています。市でも、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の活動に要する経費（防災訓練に係る経費や防災資機材の整備など）の一部を補助しています。皆さんの力で自主防災の輪を広げていきましょう。

第1回高塚避難訓練(自主防災訓練)

高塚区では、台風13号での被災を教訓に、災害時における被害防止のため、7月14日に初の避難訓練を行いました。

■災害に備えて準備をしましょう！

大規模な災害が発生すると普段どおりの生活ができなくなることも考えられます。数日間生活できるだけの「備蓄品」や、避難する時に持ち出す「非常持出品」を準備しておくことが大事です。

飲料水、乾パンや缶詰、救急セット、懐中電灯、ローソク、携帯ラジオ、ロープ、ヘルメット、ブルーシート、毛布など

生活安全課 小笠原 主査

■防災行政無線の整備

災害発生時や災害が発生する恐れのあるときに必要な市からの緊急情報（気象警報や避難勧告など）は、これまでケーブルテレビ有線網を用いた音声告知放送設備を使って住民の皆さんに伝えてきました。
 しかし、東日本大震災等を考慮し、より充実した周知体制を整えるために、市内全域をカバーできる無線通信による放送を開始することになりました。受信機は現在市内全戸に配布中です。放送開始予定は、平成26年4月からとなっています。

■小中学校の耐震改修

市では、市内小中学校の施設耐震化推進事業として、補強が必要な小学校7校（雲浜、西津、松永、今富、口名田、中名田、加斗）と中学校2校の耐震工事を行います。
 小学校は今年度の9月中に完了予定。中学校は来年度中に完了予定となっています。



▲雲浜小学校の工事の様子



▲無線の受信機



▲整備された屋外拡声機(内外海公民館横)

わたしの住んでいる所は大丈夫？

市では、ハザードマップを作り、洪水や津波時の避難場所や、地震時の地域ごとの揺れやすさなどを周知しています。マップは生活安全課で配布しているほか、市公式ホームページでも閲覧できます。

小浜市公式ホームページ <http://www1.city.obama.fukui.jp/>

- 「防災・安全」
 - 各種ハザードマップ「洪水・津波・内水ハザードマップ」
 - 地震に備えて「揺れやすさマップ」
 - 土砂災害について
 - 福井県河川砂防総合情報「土砂災害警戒区域等管理システム」